

四国電友会会報

第2号
 発行人 山崎 義己
 発行所 松山市南持田町3番地40
 電気通信共済会 四国支部内

目次

○ 恩給年金の改定等について……松山 山崎 義己……一頁	○ 事務所日誌……山崎 生……二頁	○ 四国電友の創刊号を読んで……徳島 太田 集……二頁	○ 随 想
○ 阿波踊り……徳島 堀端 隣夫……三頁	○ 堀端 界 限……松山 高橋林 二郎……四頁	○ 弘法大師略伝(その二)……三本松 浦辺 慎悟……五頁	○ 謡 曲……高知 国弘 恒好……六頁
○ 短 歌	○ 回 想……松山 藤田 基孝……七頁	○ 歌謡詩	○ 咲けよ自由の花……高松 植田 風鈴……七頁
○ 共済会からのお知らせ……八頁	○ 事務所からのお願い……八頁	○ 編集後記……八頁	○ 編集部……八頁

恩給年金の

改定等について

松山 山崎 義己

私達が今貰っている恩給年金の額は昨昭和四十五年十月一日に改定されたものでございます。それに今年昭和四十六年一月から昨四十五年十月の引上げ保留分二、二五%（これは四十四年度に定率給に対する比率で四十五年度の比率は二、一%）が九月末まで加算されて本年十月一日からその額に八、四%が加算されることになるのでございます。即ち

現在の假定俸給×一、〇二一

九月末迄で

十月からはそれに

（現在の假定俸給×一、〇三）×一、〇四を貰うこととなります。それで

今年の十二月中旬に貰う金額は九月末までの引上げ保留分の追給額と十月十一月二ヶ月分の新改定年金額ということになります（十二月支給は九、十、十一の三ヶ月）

参考のために改定された方々のもの数例を並べて見ますと

例 A 生年月日 明29、3、2（75才）

退職 昭23・6・30
 組合員期間 23年10月
 年金支給率 四、四〇

假定俸給 年金額

45・10・1 四、六四〇 一八、三二六

46・1・1 四、五〇〇 一八、〇〇〇

46・10・1 四、九六〇 二〇、六四〇

不均衡は正該当昭23・6・30現在の標準給料九五、X、の標準給料九五、X、

九五、X、三五

例 B（新法年金）

生年月日 明34・3・6（70才）

退職 昭33・5・8

組合員期間 39年8月

年金支給率 〇、五〇五六六六七

退職時の俸給 三、五〇〇円

28・12・31俸給 二、八〇〇円

假定俸給 年金額

45・10・1 七、八〇〇 四、九六二五

46・1・1 七、二六〇 四、八四七四

46・10・1 七、八三〇 四、七五三七

例 C

生年月日 明37・7・25（67才）

退職 昭38・5・18

組合員期間 42年4月

年金支給率 〇、五七三三三三三三

退職時俸給 三、〇〇〇円

28・12・31俸給 三、一〇〇円

假定俸給 年金額

45・10・1 九、二八〇 六、三三七〇

事務所日誌

山崎 生

四六・九・一水曜 快晴

今朝の大阪毎日新聞の記事に総
理府恩給局は来年度(四十七年度)
から恩給年額を一〇、一%増額す
るなど恩給改善のため六四〇億円
(実際の増額支給は四十七年十月か
らなので四十七年必要額は一六〇億
円)を新たに要求する。恩給局の
説明には来年度は恩給年額を一〇、
一%増額するが、これは四五年度
に公務員給与が一%消費者物価
が七、三%上昇した事情を考慮し
たものである。と出ていた。

四六・九・三金曜 快晴

今朝のテレビで大宅荘一氏は松
永安左衛門さん(九五才)から古
稀のお祝にと式紙を頂戴した。そ
の式紙に「これから勉強しなさい」
とあった。大宅氏がお礼に参上す
ると「美しく死ぬことよりもまし
く老いることは難かしい」という
ことを話された。と

古稀を迎えることは一応平均寿命
を生きたのであるからこれからの
一日一日を天地八百万の神々に感
謝しながら世の人のために無心に
奉仕しなさいという意味であらう

美しく老いるという言葉はひび
きのよい言葉である。老醜という
言葉はあるが浄老という熟語は無
いように思う。さて美しく老いる
道はいかに——自分なりに沈思公
案する。

一つ自分に出来る仕事をする。
二つ朝起きる時寝る前に軽い体操
をする。三つ怒らない。四つ無理
をしない。五つ慾張らない。六つ
昼寝をする。七つお日さまを拝み
大自然の生命素を吸い込んで天理
に順応する生き方をする。

四六・一〇・八金曜 涼し過ぎる
新しい名簿が出来たとの知ら
せがあったので、愛媛通信部へ取
りに行く。数量二四六部会員二三
三名、余部一三部、余部の一部に
十月一日入会者の分を記入して事
務所用として保管のこととする。

電退連本部から調査の指示があ
ったので退職者現況調査を職員部
から持ち帰る。

四国電友の創刊号を読んで
徳島 太田 集

四国各県の会員の心の寄りどこ
ろとして四国電友がこの度発刊さ

れたことは何といっても深い嬉こ
びであります。ともすれば離れん
とするお互の心を結ぶものとして
意義深いものがある筈であります
今後の人生の動向についても、ど
んなにお互の体験発表によって教
えられることでしよう。そうした
方向に進んで行くことを願って止
みません。

高松の池田氏の「私の提案」の
記事も確かに情報の緊密化に教え
られるものがあります。そして同
趣味による会合も生活の夢を実現
する上に於いて意義あることと思
います。健全な夢はその人自身を
力づけ健康につながるからであり
ます。又先山氏の特異体質回想も
非常に参考になりました。定期的
な検診が如何に重大かを反省させ
られました。殊に我が国の高度成
長化が心身に変化を及ぼして成人
病が増大し高度成長病と云われる
程になりました昨今その必要は論
を俟たないところです。

終戦直後の欠亡時代には病気の
少なかつた我が国が高度化につれ
て増えるムジユン。

健康第一は古い言葉ですが最も
新らしい言葉です。真理は永遠に
新らしいからでしょう。

46・1・1 九四一八〇 六四六八元
46・10・1 一〇二、〇九〇 七〇二、一五五

例D

生年月日 明42・11・7(61才)

退 職 昭43・5・15

組合員期間 32年6月

年金支給率 〇、四六八六七四五

退職時俸給 八八、五八〇円

28・12・31俸給 三九、一〇〇円

假定俸給 年金額

45・10・1 九二、二八〇 五九、二〇〇

46・1・1 九四、一八〇 五九、八九〇

46・10・1 一〇二、〇九〇 五七、四三九五

例E 今回初改定

生年月日 大4・5・11(56才)

退 職 昭44・5・20

組合員期間 34年5月

年金支給率 〇、五八七五四九

退職時俸給 一〇三、一〇〇円

28・12・31俸給 四三、九〇〇円

假定俸給 年金額

45・10・1 対象外 六九、二五六

46・1・1 対象外 六九、二五六

46・10・1 二二、七五〇 七四、二五二

※ 来年度(四十七年度)の予算

要求には一〇、一%の恩給年金改

定費が出されております。四六・

九・一・大阪毎日新聞掲載

以上

なんととっても健康は精神安定でストレス解消。腹八分。適当な運動といわれていますが簡単に難かしいものです。日々の充実に難かしいように。高松の猪谷氏謡の「ころ」も声を腹から出すためには日々の訓練が大事であることが述べられています。現在を生かす、この積み重ねが一年になって来るわけです。所が緊張の連続ばかりでなく「間」の必要なのは家ばかりではないようです。其の他の記事についての嘯みしめることによって味が出て来ます。十郎兵衛屋敷にても私のところからは市バスで三十分足らずの所ですが斉藤氏の云われるように近松の、「傾城阿波鳴門」の浄瑠璃によって広く喧伝されましたが何処までが真実か歴史家に委かすことにしまして興味深いものがあることは事実であります。

一日の歴史散歩にどんなに勇気づけられることでしょう。こうした伝説を知られることも地方地方によって深いものがある筈です。ところで会者定離の現実にも深く胸打れるものがあります。亡くなられた人達の冥福を祈るばかりですが私にとっても佐藤氏が逝かれたことは大きいショックでした。徳島から松山へ栄転されて、いつでしかた松山報話局で古閑局長と一所にお会いしたのが最後でした。その後小豆島から観誘を受けました。が都合で行けなかったのが悔まられてなりません。

ただ一期一会の茶心に悟らされるばかりです。断片的な感想で申訳ありませんが皆様の御健康と御多幸を祈り上げる次第です。

随想

阿波踊り

徳島 堀端 隣夫

徳島といえば他県の人にはまづ第一に阿波踊りを連想する程踊りには有名になった。

毎年八月十五日から四日間市内は街をあげて狂踏乱舞の踊り絵巻が展開される。この四日間に繰出す踊り連は約二千、踊り子は十四万におよぶのである。男は鉢巻に印入浴衣、腰に瓢箪又は印ろうをそして白足袋、女は鳥追笠に片肌姿で桃色の縞胖の袖や裾をなびかせ縞子の黒帯に白のてごに白足袋

それに紅白の鼻緒の塗り下駄といった装束である。

笛、大鼓、鐘、三昧の音と、囃

にあふられて、男は銘々勝手に独特の型で女は統制のとれた品のある動きで踊り狂うのである。私は女が男装してする男踊りがとても好きである。これは相当の年齢がいるらしい。連の中の個人を見るとそれぞれ違った動きであるが、その連全体は一つにまとまって動いている。かような団体がそれぞれ異ったテンポで踊りながらいく

一切が平等である。それで喧嘩の一つもない。これは昔から伝統の自慢である。こそこそするのはスリ位であらう。

夏の夕方涼を求めて散策するとどこからか笛や太鼓の音が伝わってくる、それは広場や校庭からで附近の人々が本番に備へての稽古である、かような風景があちこちに見られる時期が近づいてきた。

多くの連が集ってきても踊り全体の調和が乱れない。又動きの激しい踊りと緩やかに流れる「よしこの」の囃しがよく調和するのも不思議である。踊る阿保に見る阿呆、同じ阿呆なら踊りやなソンソンという囃文句のように、他人が面白そうに踊っているのを見ている中に釣り込まれて踊り出す、楽しいから踊るのでなく踊るから楽しくなるのである。子供も年寄りも学生も銀行、会社、官庁、公社のサラリーマンも社長も重役も、議員も市長も外来有名人も外人さえ踊っている。踊らぬのは整理に当る警官位いだ。そこには身分の上下もなく踊りの上手下手もなく

踊りの起源については色々の説がある一般に伝わっているのは豊臣秀吉が四国平定後瀬戸内海の海上権を握りたため蜂須賀家政を阿波に封じ水軍の根拠地として天正十四年徳島城を落成させた。その落成祝に人夫や町人は城内の振舞酒に酔つてめでた、めでたと踊り狂ったのが家政のお気に召し毎年催すことになったといわれる。時恰も七月十五日の盆であった。その頃はまだ一般家庭には三味線なんか有ろう筈もないので手振り足振りして面白く踊ったぐらいであらう。

新のんき連という連がある、連長は阿波踊りの看板となっている姓億政明氏で徳島報話局に勤務している。一昨年踊り子十三名を引率してカナダへ踊りの親善に出か

けた、本年も四十八名の一行でカナダとブラジルを訪問する予定になっている。阿波踊りも国内だけでなく国際的になってきた。それはマンボやツイストと相通ずる世界性をもっているからであろう。

最近阿波踊りを阿波ゴーゴーともいっている。市の観光協会は踊り期間外に訪れる観光客のため藍場町公園に演舞場を設け実演と手ほどきをしている。

期間自四月十五日 時間自午後八時 料金五〇円また踊り期間中昼間二回文化センターで選抜踊子達の競演が催される。ショウ化した傾向もあるが観光の価値は十二分である。一度はご覧下さい荷物にはならぬ。新聞社主催のため県外には余り知れていないようだ。入場料三五〇円の前売りで当日購入は困難だ。

堀端界限

松山 高橋 林 二郎

松山や秋より高き天守閣 子規昔、松山の城北方面を「古町」といった。これに対し、城南方面を「外側」といった。伊予鉄高浜線の「こまち」という駅名はその名

残りであるが、まだ「坊ちゃん列車が走っていた大正末年までは「松山市駅」という駅名はなく、一般からは「とがわのステーション」の愛称で親しまれてきた。

西堀端の北端、本町に接するあたりが「札の辻」であった。旧藩時代、藩庁からの布令、通達などがここに掲出されたのでこの名がついた。ここが城下の中心であった。さきごろ、朝日新聞愛媛版に連載された「伊予の人びと」のなかに次の記事があった。

松山藩は寛保元年三月、松山城下の「札の辻」を起点に、土佐大洲、小松、今治など街道の道標を立石にかえ、今治藩、大洲藩など他藩との境も立石で区切った。この時、松山藩は「札の辻より〇里」という文字を藩の祐筆水谷半蔵に、郡境については荒井又五郎に、他藩との境には伊藤子禮に命じて揮毫させた。その文字を立石に彫って建てたが、その立石はいまでも各地にみられ、道行く人もその文字を見ては、当時をしのんでいる。ところで、加藤嘉明が関ヶ原の戦功により松前六万石から二十万石に加増され、松山築城にふみき

つたのは慶長七年一月であった。嘉明はすぐれた武将であったが、家臣のなかにも佃千成、足立重信らの人材がいた。寛永四年、嘉明は会津四十万石に転じた。

嘉明の会津転封の後、蒲生忠知が出羽上の山から着任した。寛永十一年、忠知は江戸参勤の途次、京都で卒去、蒲生家は断絶した。伊勢桑名の城主久松定行があらたに松山十五万石を領した。爾来明治維新にいたるまで、久松家の治世がつづいた。

話が前後するが、松山築城の際、松前の売魚婦（おたた）が頭に御用櫃を戴き、城の器材を松前から松山まで運んだという伝説がある。このとき、嘉明の夫人が八股の榎の傍で彼らの労をねぎらい、握飯を与えたといわれている。正岡子規が「小のぼりや狸をまつるかれ榎」と詠んだ八股の榎は、当時は亭々とした大樹であった。また根元が八つに裂けていたので、このかいわいを八股といい、ここから南に伸びた町筋を榎町といった。いつのころからか、この八股の榎に狸が棲んでいるといううわさが立った。狸の名を「お袖さん」といい、妙齡の婦人に化けるのが

得意であった。ある晩、婦人科医の安井さんが乞われるままに往診した女性が、実はお袖さんの化身であったと、まことしやかに言い触らされた。うわさの出所は、安井さんを患家に運んだ車夫の口からということであったが、当の安井さんは笑って答えなかった。安井さんは山果と号し、俳句をよくした。戦後、都市計画の一環としてこの榎は「八股」の地名とともに堀端から姿を消したが、時の松山市長は、奇しくも安井山果その人であった。

さくら活けた

花屑の中から一枝拾ふ 碧松山市役所の新庁舎と道路をへだてた反対側の堀端に、俳人河東碧梧桐の句碑がある。この碑は、もと松山刑務所の構内にあったが、昭和28年同所から寄贈をうけ、碧梧桐の十七回忌と併せて除幕式が行なわれた。そういえば、松山刑務所には地元の俳人森薫花壇が勤めておられた。森さんは俳誌「糸爪」を主宰し、ながらく後進の指導にあたっていたが、その功績が認められ、昨年度文化賞を受賞された。

南堀端の東詰、現在の伊予銀行

のあたりであろうか、海南新聞の社屋があった。明治九年の創刊といえ、全国で最も早く発行された地方紙といえよう。創立者は草間時福であったが、井手正光、小林信近、長屋忠明、白川福儀、藤野政高らの諸氏によって社の基礎がかためられた。記者のなかには柳原極堂、子規の命を受けて極堂とともに「ホトトギス」を発行した田中七三郎の顔も見える。また「肉弾」の桜井忠温に対し「此一戦」を発表した水野広徳が少年時代、海南新聞を配達していたという記録もある。

さて、碧梧桐の句碑の左手に警官派出所が建っているが、これらを含めたこの一角に、私たちになじみの深い建物があった。戦災で鳥有に帰したか、あるいはそれ以前に取り払われたか記憶がさだかでないが、ここに松山郵便局長の官舎があった。たしか柏木保次郎さんの局長時代、持田の新居に移られたが、一見して明治中期の建築とわかる西欧風の建物が、波静かなお濠に影を落していた。

春や昔十五万国の

城下かな 子規

弘法大師畧傳(その二)

三本松 浦辺慎悟

わが国古代には、偉人や尊敬すべき人をよく「タイシ」と呼ぶ習慣があったこと、そして、とかく伝説は中央より地方に、しかも、さみしい文化のおくれている山間とかかた田舎地方により多いことを、まずはっきり念頭においてもらいたい。ことに僧空海が出現してから、その真言宗の布教をうけた地域はもちろんのこと、その他の地方においても弘法大師(大師諡号は、その一で述べた通り死後百五年有余も経過してからのことであるが)と「タイシ」とが、こんがらがって区別がつかぬままに今日に及んでいる事例が数多いのである。したがって、伝説上では、その足跡はほとんど日本列島上いたる所に分布しているのであるが、ここでは、現存している資料によって、ほぼ確認可能なものについてのみ簡記することとする。

まず、事業の主たるものは当然に(一)真言宗立教開宗とその伝導等(二)綜芸種智院(各種学芸教育の中に、種智すなわち大日如来の智えが秘められているという主旨を基

ある。久しく故郷を離れていつも京都にいたるが、もし彼が帰郷したと聞けばかならずや民衆がどんどん集まり迎えるであろう。そこで彼を池を築くための別当に任じてこれを完成させたいと思う」というわけである。その結果勅命で空海を帰郷させることにした。空海は池の堤わきに壇を建て、そこで約三年間祈願をこめたので、民衆が次第に集り、それらを指導督励して遂に落成したのである。つぎは、建築であるが、四国八十八か所巡りをすれば数多くの寺々が弘法大師云々とさりげなく縁起を述べているが、さてどうであろう? ここで参考のため香川県五剣山八栗寺(八十五番札所)の略縁起を同寺発行の縁起書(百円)の内容の一部をそのまま記すと……宝亀年間弘法大師御幼少のみぎり登山して、土泥を以て三千仏および十王の像を造りて遊び給ひ、その後大師再び此の峰によちて虚空蔵聞持の法を勤修し七日を経るに及んで明星来影し、三七日に至りて五柄(ごへい)の利剣虚空より降る、其時金剛蔵王示現して告げ給はく、此山は仏教相應の靈地なり大徳は弘法の人なりもし此嶽に就

て伽藍を建て三宝を弘めなば我常によう護せんと……中略……初めは八国寺と号せり。然るに延暦年中、大師入唐前にまた此処に來りて求法の前効を試み焼栗八枚（やきぐり八まい）を植え置けるが帰朝の後ち彼の栗悉く生長せるを見て改めて八栗寺と称せり……以下略……。とにかく一例を示したのであるが他の多くの寺々も大同小異の縁起をせん伝しているものが多いが、さて千百有余年昔のことであり、頭をかかえるほかあるまい。

では、伝説にうつる前に、ここでもう一度、名僧空海の人間の活躍ぶりを振りかえってみる。優秀な文才にものをいわせて、はなやかな宗教活動（其一でちょっと述べたが、だいたい密教というのは、仏教の中にバラモン教やインドの古い民間信仰をとりこんだもので、呪術性の濃いものである。密教以外の一般仏教からみれば、すこぶる神秘な、理解することのむずかしいものであるゆえに密教というわけである。しかし密教当事者からいえば、自覚の至らないものには秘密教としてつけとれるが、自覚の進んだものには、秘密でも

なんでもないという。その教理哲学はむずかしいものだが、実際面では加持祈祷といって、読経や真言（其一参照）を通しつつ、ひそやかにおごそかな儀式をもって呪術を行なうのが特徴である）加うるに時の文人君子嵯峨天皇の信任あつく、貴族連とも密接な交しゅうがあり、さもなくてさえ、僧侶といえは一般民衆からも尊敬をうけた時代のことであるから、その人氣は超人的であつたにちがいない。すなわち、万能の「生き仏様」にイメージアップされたのも、むべなるかなであるだからこそ北は東北地方から南は九州までいたる所に伝説がある。その中でかなり信用のおける筈の鎌倉初期の古書「古事談」という本にさえ「空海は祈祷の呪術者として聞えるだけに、天長元年宮中の神泉苑で、雨ごいの祈祷を守敏（しゅびん）と争ったとき、守敏は京都市内だけに雨を降らせたが、空海は池の童王に供養して、天下一円に三日間大雨を降らせ、その功で大僧都になった……云々……とあり。また信仰伝説としては「大師講」がある。もちろん、これは全国的にいくらか説き方を変えて伝わって

いる話であるが、根本は、遠方から訪れてくる偉い人、神様、要するにタイシ様にたいして無礼なことをするとひどい罰があたり、これをよろこび迎えて、供応すれば恩恵があるという、古い考え方（マレビー信仰という）によっている伝説であろう。常陸国風土記にある富士、筑波の神がミオヤノカミに対する新嘗（にいなめ）の夜の話もそれであり、なかなか由来の深い、もっともらしいものである。その主役を一般的に神、タインから、弘法大師にすりかえさせていったのは、もちろん真言宗の普及によるものであるが、また宗派を超越した、大師の社会的人氣の大きかったことを物語っているとされる。このほか、弘法清水の伝説や弘法大師書損云々……と伝えられる京都平安宮の応天門の額字があり。また、女人高野室生寺にある五重の塔（空海が一夜で完成したと説明されているが）などで現地で実際に見た人々の内ではたして何人の人が信じていることができるであろうか。このように伝説をひろっていると次から次へと、長々しくなるのでしめくりの意味で近所の一例を挙げてみる。

高松郊外屋島の旧登山道の中腹に「くわすの梨」の伝説がある。この起りは例によって一人のみすばらしい旅僧が路傍の梨の実を一口所望した処、ごう欲なおばあさんは「この梨はかたくて、とてもたべられないのだ」と言つて、むべに断つた。しかたなくなく、旅僧は暮れ足はやい秋の夕日を背にうけて、空腹をかかえて、とぼとぼと下山した。そんなことがあつてから、それ以後その梨の木になる果実は小さくしかもかたくて、とても食えないので人々は「食はずの梨」と呼ぶようになった。もちろん彼の旅僧はたれあろう、弘法大師その人であつた。終り

謡曲

高知 国弘恒好

六〇の手習いという古い言葉があるが、私もこの年になって、はじめて謡曲を習い始めた。趣味というにはちょっと高尚であり、それほど時間が余つて困っているわけでもないけれども、私の場合は必要に迫られて始めたということになる。

近頃は余りやらなくなったけれ

ども、それでも私達の土地では何かのお祝いの宴席では必ずといってよい程謠が出る、おめでたい謠曲を三番出して出席者がこれに和して祝福するのであるが、この謠が間違ったりすると、どうも困るものである、それで仲々主役をつとめてくれる人がなくて苦労することがある。これが終わらないと座も盛り上らずお開きもできない。

若いうちには知らなくても誰かがやってくれるだろうとあん心して、お酒の方を過していたが、年かさが高くなるにつれて宴席でも高座につくことが多くなる。そこで謠を知らない、まことに不便なことになる、何時までも知りませんでは事がたならなくなった。謠曲を習う気になったのはそのためである。

ほんとうは必要ならただだけをちよいと習いたいと思つたが、大体けい古とは何でもそうであるように基本がしっかりできていなければならぬのであって、謠曲とても論外ではない、その基本が大事である、私は大抵性来の音痴である上に年令的にも至って忘れ易くなっている関係もあって、週一回のけい古日には常に新人生に

なっている。それでもまじめに通って一年になるが、どうやら大きな声だけは出せるようになった。考えてみると先生も不肖の弟子を持つてまことに気毒であると思つている。

ちかごろの若い連中は人前で、むつかしい曲をやることばかりをいいことのように考えている者もあるがそのくせ肝心のけい古は余りしないようである、基本に忠実になければならぬことを復習させられたのはありがたいことである。

大体一年もやれば何とかやれるだろうと考えて入ったこの道も現実はとてもけわしくてなかなか行き着けそうにもないが、やらなければ進歩はないのであり、年令のことなどは気にしないで、けい古日には一生懸命で練習をしている。この月末には春の謠曲会が催される予定で、その席ではお役ということと一人で謠う部分もあるので張り切らざるを得ない。できなくてきは別にして何かを追いかけていることが、若さと健康を保つものであると思う。

短歌

回想

松山 藤田基孝

友にして吾導きし越智好太郎も
ひとのみち教へて命失ひき

ひとのみち憎みし時勢の軍政は
この清きみ堂をも踏み荒しにき

亡き教祖植ゑまし柿年を経て
そびゆるみ墓にわれ詣できぬ

ひもろぎの霜を冠れるくれなるに
額伏す吾に教祖のおもかけ

師のあとに従ひめぐるひもろぎに
教祖生誕百年祭迎えぬ

吾が書きし祭文を読みます師の声
に眼うるみてみ墓に待りつ

随ひて吾も教服の裾引きつつ
進むみ墓に冬の日まぶし

墓前祭終へてもどろし庫裡の座の
鍋に甘酒が煮えてゐたりき

甘酒の煮ゆる庫裡につつましく
教服ぬぎて吾も坐りぬ

(友を悼む)

言絶えてやせたる友の口の辺の
白く伸びたる髭のかなしき

みまかりし友の手垢によごれたる
小さきカバンも涙をそそる

(金魚病む)

長く飼ひて病みし金魚はこの冬も
やうやく越しぬ鰭を横にして

横ざまに泳ぐ金魚の病みしまま
哀れ年経て春の日に映ゆ

(雑詠)

土佐に住む孫が電話にかたことの
もの言ふうしるに親があるらし

小手毬の崩え出でし芽に近づきて
吾は疲れし眼を休めつ

れんぎよの細き枝々にいち早く
角ぐみし芽を見てもどりたり

歌謡詩

咲けよ自由の花

高松 植田風鈴

一 戦い負けて 戦禍あり、敗者
の悲惨 君知るや、起てひと
びと 奮い立ち、自由の道を
一人一人

いざという時のホームドクター
という書籍が主婦の友社と連繫し
て電気通信共済会が発売していま
す。執筆されている方々は何れも
関東通信病院のお医者さんで、皆

共済会からのお知らせ

新しい家庭医学全書

- 本書の特色
- 症状から疑われる病気がズバリわかります。
 - 関東通信病院各科の一流権威による共同執筆。
 - じょうずに医師にかかるためにも親切な編集。
 - 人に聞きにくい問題についてもくわしく解説。
 - 原因がハッキリわかり、応急処置が具体的。
 - 一家に一冊ぜひほしい健康管理の決定版！

[目次]		体の各部の異常	
顔の形が変わる……30	顔が痛い……32	顔が腫れる……34	顔が赤い……36
目に異物が入る……38	目に涙が出る……40	目に異物が入る……42	目に異物が入る……44
目に異物が入る……46	目に異物が入る……48	目に異物が入る……50	目に異物が入る……52
目に異物が入る……54	目に異物が入る……56	目に異物が入る……58	目に異物が入る……60
目に異物が入る……62	目に異物が入る……64	目に異物が入る……66	目に異物が入る……68
目に異物が入る……70	目に異物が入る……72	目に異物が入る……74	目に異物が入る……76
目に異物が入る……78	目に異物が入る……80	目に異物が入る……82	目に異物が入る……84
目に異物が入る……86	目に異物が入る……88	目に異物が入る……90	目に異物が入る……92
目に異物が入る……94	目に異物が入る……96	目に異物が入る……98	目に異物が入る……100
目に異物が入る……102	目に異物が入る……104	目に異物が入る……106	目に異物が入る……108
目に異物が入る……110	目に異物が入る……112	目に異物が入る……114	目に異物が入る……116
目に異物が入る……118	目に異物が入る……120	目に異物が入る……122	目に異物が入る……124
目に異物が入る……126	目に異物が入る……128	目に異物が入る……130	目に異物が入る……132
目に異物が入る……134	目に異物が入る……136	目に異物が入る……138	目に異物が入る……140
目に異物が入る……142	目に異物が入る……144	目に異物が入る……146	目に異物が入る……148
目に異物が入る……150	目に異物が入る……152	目に異物が入る……154	目に異物が入る……156
目に異物が入る……158	目に異物が入る……160	目に異物が入る……162	目に異物が入る……164
目に異物が入る……166	目に異物が入る……168	目に異物が入る……170	目に異物が入る……172

さんも既に承知のことと存じま
すが、関東通信病院のお医者さん
は国内最高水準の練達の方々ば
かりでございます。なお同院院長さ
んはつぎの通りに述べておられます。

「健康に対して神経質すぎるのも
いけないが、無関係なものもまた手
おくれになってとり返しつかな
いことにもなりかねない。身体に
異状を感じたとき、いろいろの訴

えがあらわれたとき、どうしたら
よいのか、医師に行くべきか、家庭
療法でよいものか、適切な相談相
手になってくれるのがこの本で、
執筆者も当関東通信病院臨床の各
科部長による権威あるものである。
医師にじょうずにかかるためにも、
健康管理の面からもおすすしめし
た。

お申し込みの方は左記へ
電話〇八九九 二二 九五三一代
松山市南持田町四〇一三(七九〇)
電気通信共済会四国支部広告課
定価は七〇〇円のところ特に五
五〇円(送料は別)で特売いたし
ます。

事務所からのお知らせ

本年度分会費一、二〇〇円(四
五、一〇、一四六、九、三〇)
またはそれ以前からの滞納の方が
おられますが、整理上また本会運
営上もまことに困る次第でござい
ます。どうぞお早くお納め下さる
ようお願いいたします。

編集後記

四国電友報会として第二号を出
すことが出来まして有難うござい
ます。一年という月日も何時のま
に過ぎても無くなりました。もう今年
も二ヶ月も無くなりました。何う
ぞお達者で一家お睦まじくお正
月をお祝い下さい。次号は五月初
めに発行したいと思っております。ご投
稿をお願いいたします。